

クラブ ファンタジーだより

No. 18 1992・3



ごあいさつ



会長 岡田 晴美

音楽館前の芝生に頭を出したつくしんぼが、今年も春の来訪を告げております。昨年はクラブファンタジーの発足四十周年に当たり、活躍なさっております会員の中から八名に御出演いただき、七ステージの格調高い記念コンサートを開催出来ましたことを心より感謝致しております。

私達音楽学部の卒業生も誠に多彩で、優秀な方々に世に送り出せるようになり、国内はもとより、海外でも多くの卒業生が活躍していらっしゃいます。これから皆様方の御研鑽を期待し、クラブファンタジーが、より一層発展して参りますことを心から願っております。今後ともよろしくお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

え!!

あれはピアノだったの?

既に新聞、テレビでご存知の方も多数いらっしゃると思いますが、母校から素晴らしいニュースが届きました。

一昨年の秋、音楽館(三階西端の部屋)にあった一台の古いピアノが、約百三十年前(一八六〇)に製造されたスタインウェイ社のスクエアピアノ(製造番号四四四四)と判明しました。このピアノは、一八五五年、ニューヨーク博覧会で、高い評価を得、ゴールドメダル賞・特別賞を受賞し、



3月4日スクエアピアノを演奏されるスマート教授

無名のスタインウェイ社を一躍有名にしたモデルと同じものとわかりました。スクエアピアノの製造は、一八八八年に中止され、世界でもほとんど残っていない十九世紀の幻のピアノと言われています。このピアノの貴重さがおわかりでしょう。当時のままに復元をという学院側の希望にそい、社日本総代理店(株)松尾楽器商会により、丁寧に記録を残しながら修復作業は行われました。フェルトの虫喰い穴をうめるため、米國本社からその当時のフェルトを取り寄せるなど、昔のままの部品で修理されました。三月四日、復元されたピアノがオルチン館に堂々とその姿を現しました。間口2尺、奥行98センチ、高さ95センチ、外部は木製、内部には鉄線が張られ、金の花が描かれた黒いぬりの部分も見られます。鍵盤の数は八十二、音は現在より半音低く、象牙のくぼみそのままです。公開にあたり城崎院長がこのピアノは女学院の文化的伝統の一つのシンボルであり、当時このような最高のもので教育がなされたのは意義深いと感慨深げに語られました。茂チャプレンの説明によると、このピアノは一八九〇年、カナダのミセス・チャールズという八十歳の老婦人が、当時女学院に音楽教師として来日したラドフォード女史に、お嬢さんの形見のピアノをカナダより贈ってくださいましたものだろうということでした。次いでゲイリー・スマート教授の素晴らしい演奏(小品四曲)がありました。音色は明るい高音から重厚な低音まで、多彩で上品、ロマンティックでした。百年前、初めてこのピアノに接した人々も同じように感激したのではないのでしょうか。四月十一日、いずみホールにおいて、社五十万台目の記念モデルによる演奏会が行われ、そのプレコンサートとして、我がスクエアピアノの演奏もロビーにて行われます。(詳細は四頁をご覧ください。)

出会いと出会い

稲庭 達

高校一年の頃のことです。友人が「これを聴いてごらん。」と、部屋を真つ暗にしてレコードをかけました。突然胸を締めつけるような弦楽器によるトレモロ、そしてチェロ、ベースによる幾度となく迫り狂う音列。その衝撃的な曲の冒頭から私はその世界に引き込まれてしまったのです。……失



いなにわ・とおる

東京芸大附属高校を経て1978年、東京芸大器楽科を卒業。故井上武雄、海野義雄、外山滋の各師に師事。芸大在学中、東京シティフィルハーモニーの発足時にコンサートマスターに就任。また新星日本交響楽団のゲストコンサートマスターをも務める。78年卒業と同時に名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任。80年より大阪フィルハーモニー交響楽団に招かれ8年間その重責を果たす。88年神戸女学院大学音楽学部専任講師を務める。92年大阪センチュリー交響楽団コンサートマスター。コンチェルト、リサイタル、室内楽に活躍。

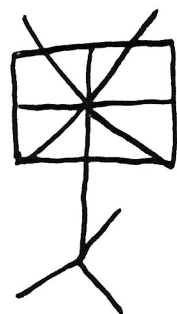
望……葛藤……勇氣……静寂……愛……光、まるで世界のすべてが、人間のあらゆる感情がそこには表現されているように感じたのでした。
……果たしてどれくらいの時間がたっていたのでしょうか。全曲を聴き終えた時にはあまりの圧倒的な感動のため言葉もありません。「ああ、自分の存在とはな

んとちっばけなもの……日々の出来事なんか全く取るに足らないもの……それにしても人間とは斯くも偉大で、生きているということとはなんと素晴らしいことなのか……」そんな思いが頭の中をぐるぐる回っていたのです。これはそれまでの私の生き方や、音楽に対する目を変えてしまうほどの衝撃的な体験となりました。当時、東京で一人自炊生活をしていた私にとってこの曲はいつも生活の支えとなり、勇気を与えてくれる、まるで「神」のような存在でもあったのです。
マラーの交響曲第二番「復活」でした。合唱、独唱を含む大規模な作品です。当時からオーケストラに強い興味を持っていたので、いつしかこの曲を演奏できることを夢見ていました。前置きが長くなってしまいました。ついに演奏のチャンスがやって来ました。今から十年ほど前になりましたが、その時の合唱の女声コーラスが、神戸女学院音

楽学部だったのです。その歌声はお世辞ではなく実に素晴らしいハーモニーで大変感銘を受けたのをよく覚えております。実際、指揮の小林研一郎氏のもとでこの「復活」は、私の夢を壊さない見事な感動の世界として鳴り響いたのでした。

女学院で

四年前に女学院の専任として招いていただけたことは、私にとって大変因縁深いものを感じたものでした。オーケストラでの生活に少々疲れていた私には、女学院は本当に快適な場となりました。私が入った年の秋には新しいオルチン館が完成し、その三階に研究室もいただけなのです。窓からはレンガ造りの音楽学部本館、四季それぞれ美しい色合いを楽しませてくれる豊かな木々、そして青い空が広がり、恵まれた新世界に改めて幸せを感じました。レッスンの後にゆっくり自分の時間をもてるのは本当にありがたいことでした。



余談ですが、いつでしたか、やむなく日曜日に研究室に行った時のこと、なぜかタバコの煙で非常ベルが鳴ってしまい、守衛さんや事務の方に大変ご迷惑をかけてしまいました。勿論翌朝にはお目玉をいただきましたが……。本当にすみませんでした。それ以後は残念ですが、日曜日は遠慮しております。

教える！？！と

四年間を振り返ってみて、自分は果たして良い教師であつたのだろうかと考えると、あまり自信がありません。自分の音楽観を学生に強制し過ぎはしなかっただろうか、また、そのことによる精神的苦痛で音楽に対する興味や愛情を薄れさせはしなかったのだろうか……などと考えると一抹の不安を覚

えるのです。教える身としては、そのようなことを気にし過ぎてはじまらないのかもしれないが……しかし、一人一人違う顔をしていて、音楽でも違う感性を持っていて当たり前だと考えた時、やはりもう少し個々に自由に弾かせてやってもよかったですかと思つたのも事実です。なぜなら「ソロ」の曲はあくまでもその人のものでなくてはなりません。アンサンブルやオーケストラとは多少アプローチが違つてもよいはずですし、むしろ個性が必要とされるのです。しかし個性ばかり先行しても……などと考えると、まず音楽を教えること自体分からなくなつて来て、全く自信を失いそうです。



おヒゲの頃のパパと娘

であることが第一条件ですから、各パート、また各自がそれぞれの都合によって生じる勝手な弾き方をさせないためにも、一つの明確な音楽の方向性を示さねばならないからです。私も今までで分多くの指揮者の下で演奏してまいりましたが、この楽譜通りに演奏するということが一見簡単そうであるけれども、実際はどれだけの難しさにか。本当にそれは大変なことなのです。実際素晴らしい指揮者になればなるほどその楽譜通りには徹底的に要求され、そのために厳しい練習が繰り返されます。

そしてはじめて、作品本来の偉大さが光り輝いていく過程と、また、その結果を何度も感動をもって体験して来ました。こうした体験こそ、生涯の貴重な宝だと自分では考えています。また逆に、個人的な解釈によって楽譜をゆがめてまでも効果を狙うような演奏には感動はしないものです。思うに、そこには作家的な要素が入るために自然でなくなつてしまふからです。では何が自然なのでしょう。繰り返すようですが、楽譜通りがまず鉄則。そこで楽譜（作品）に対して興味と愛情をもって接し、そこから何か必然的なものを感じ取ることではないかと私は考えます。

今回、私の独学の自己流の指揮で、このような大それた考えを持つこと自体おこがましいとは思いつつ、オーケストラの指導を熱意をもってやってきました。なかなか骨の折れる作業ではありましたが、結果的には学生にも熱意が伝わり（？）メンバー全員の誠意と協力のおかげで、シューベルト「未完成」は（大変に難しい曲でしたが）それなりに、また、グリーグ「ピアノ協奏曲」もソリストの見事な演奏をオケも上手くサポートしてくれました。中村先生のフアリヤは皆が本当に乗った快演で、前代未聞のアンコールまで飛び出すことができました。学生がオーケストラの楽しさと厳しさを、そして喜びを少しでも感じてもらえたなら無上の幸せです。



定演後ソリストの島さんと

その他演奏以外でも大勢の方々のお力添えのあったことに深く感謝いたします。

最後になりましたが、私もこの三月で卒業することになりました。オーケストラの魅力がまた私を引き戻してしまつたのです。一年間は非常勤として残りますのでよろしくお願ひします。

女学院では学生達と授業やレッスンを通じて、また諸先生方とはいろいろな場での交わりを通じて、とても意義深い四年間でした。この貴重な経験を生かして新たな音楽の場で自分を磨いていきたいと思ひます。ありがとうございます。

クラブファンタジー後援について

会員の皆様が進奏会を開催される場合、クラブファンタジーが後援をさせていただきます。ただし必ず許可をお受けくださいますようお願いいたします。

プログラム

1. ピアノ独奏 黒瀬紀久子
◇グリーグ:ノルウェーの旋律による変奏形式のバラード短調 作品24
2. ソプラノ独唱 田中 淳子(伴奏 内尾 睦子)
◇ヴェルディ:『椿姫』より ああ、そは彼の人か~花から花へ 他
3. ヴァイオリン独奏 松永みどり(伴奏 神吉 泉)
◇ドビュッシー:ヴァイオリン・ソナタ
4. ソプラノ独唱 荒田 祐子(伴奏 神吉 泉)
◇ビゼー:『カルメン』より ハバナネラ 他
5. ピアノ独奏 山内 鈴子
◇トビュッシー:喜びの島 他
6. ソプラノ独唱 齋藤 言子(伴奏 内尾 睦子)
◇ドニゼッティ:『ランメルムールのルチア』より やさしい声が聞こゆる
7. ピアノ二重奏 南 祐子 大川内玲子
◇ラマニノフ:2台のピアノのための組曲 第2番 作品17より
ロマンス 他



クラブ ファンタジー

40周年記念コンサート

1991年12月12日 いずみホール

クラブファンタジー40周年記念コンサートは、昨年十二月十二日いずみホールで開催されました。当日はそれまでの暖冬から一転してとても寒い夜になりましたが、シャンデリアの明るく輝いたホールの中は、華やかな雰囲気があふれておりました。現在活躍していらつしやる多くの同窓生の中から、特にお願ひした方々によるピアノソロ、バイオリンソロ、独唱、ピアノデュオは、いずれもすばらしい演奏で

聴衆を魅了しました。只残念だったのは、これを企画するに当って、一人でも多くの方に聴いていただきたくと努力しましたが、聴衆の入り方が今一つで、記念コンサートにふさわしい盛り上がりには欠けたことです。〈出演者の感想〉

◆ 記念コンサートという事で他とは全く異なった緊張感があり、それだけに練習も特に充分積みコンディションも整え、万全の状態での臨み気持よく演奏できた。◆ 一般の方にも理解して

いたただける様に「クラブファンタジー」の定義をチラシにも載せたらどうか。〈聴衆の感想〉

◆ 内容はとてもバラエティに富んですばらしかったのに、聴きにきた同窓生が少なかった。◆ クラブファンタジーの記念音楽会なのだから、主催者の挨拶や歴史の説明があつてもよかつたと思う。◆ 管、打楽器、オルガン、室内楽等、今までとは違つた分野の演奏があつてもよかつたのではないかと。

今回の音楽会で痛感したのは、クラブファンタジーの重要な活動の一つであるファンタジーの夕べが、同窓生の発表の場として発展していくためには、演奏者と同じウエイトを聴衆も又担っていることを認識し、会員の皆様へのきめ細かい情報の伝達と宣伝、そして皆様との御協力が必要だということでした。この課題を念頭に置いて今年のクラブファンタジーの夕べを計画したいと思つておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

プレコンサート

演奏者 添田ゆみ (108回)

牧野千明 (108回)

於 エントランスロビー

P.M. 1:50~2:10

P.M. 6:20~6:40

第1部

(P.M. 2:30~) ¥2,000

スタインウェイニューライツコンサート

関西4音楽大学

推薦ピアニストによるコンサート

島 敏子 (108回) 他4名

第2部

(P.M. 7:00~) ¥4,000

清水和音ピアノリサイタル

音楽学部事務室(0798-51-9556)

にて¥2,000で販売

スタインウェイ・スクエアピアノによるプレコンサート

バーゼルより

M79 尚子コッホ



皆様お元気にお過ごしでしょうか。スイスのバーゼルに住むようになりまして二十五年がたちました。バーゼルはスイスのドイツ語地区では一番暖かい所です。ドイツとフランス、スイスが一緒になる町でちょうど女学院のあたりを私の家とすれば門戸厄神あたりがフランス、西宮北口がドイツという所でしょうか。町を一步出ればドイツのシュワルツワルド、フランスのアルザスの広々とした森、草原です。夏は牛や羊が草を食べています。それでいて一流音楽家の来

るコンサートホールまで十分で行けます。ですから財布は三つ、スイスフラン、ドイツマルク、フランスフランと分けて買物に行くということになります。

公立の音楽学校が小、中、高校に並んで設けられ、ここで基礎を一年、そのあと好みの楽器に進みます。最

近はクラシックギター、トランペットもピュラーになって来ました。私も子供の手が離れてからここで職を得て週八時間程ピアノを教えています。ピアノは習いたい子供が多く一家族につき一人だけという制限がつき多くの父兄から文句が出ています。教材は初歩では次の様なものです。

- Der Neue Weg
- von Heinz Schüngeler
- Klavierschule
- von Michael Aaron
- Byer-Vorschule im
- Klavierspiel Neuarbeit
- von Erwin Christian
- Scholz 24Piccoli Studi
- von Pozzoli
- Für Kinder
- von Bartok



ライン河よりバーゼルの教会を臨む

私は最近、教会のパイプオルガンを習い始めました。いつか一度あのすごいフォルティッシモに挑戦したいと思っていたのです。フランスのアルザス、ドイツのシュワルツワルドには多くの古い美しいオルガンがあ

り、娘の数学の先生がオルガンストナので弾かせていただいたり、又、バーゼルのミュンスターのオルガンにもさわらせていただいたり楽しく過ごしております。市内の日曜日の礼拝に代役で弾き、女学院での礼拝を思い出しています。



青少年音楽学校の
同僚・生徒と共に

では皆様のお幸せと御健康をお祈りしつつ筆をおきます。

およろこび

奥 千恵子さん(95)が、大阪市の今年度の「咲くやこの花賞」を受賞されました。活躍が期待されます。

卒業にあたって

109 皆川 治子
米澤 協子

満開の桜の中、胸を弾ませながら入学しましたことが昨日のように思われます。私達の学年は今迄になく様々な楽器を専攻する六十四名という多くの学生が入学を許可されました。そのために、活気溢れる輝かしい学生生活の第一歩を踏み出すことが出来ました。

一回生の秋には待望のオルチン館が完成致しました。そのお陰で練習室が非常に多くなり、図書室も更に充実し、学生の勉学への意欲がますます高まりました。

このような素晴らしい環境の下で先生方の熱心な御指導を賜り良き学生生活を送ることが出来ましたことを深く感謝しております。本学院で学びました愛神愛隣の精神を基とし、これからも女学院の同窓生として誇りを持って歩んで参りたいと思えます。御指導の程よろしくお願い致します。

'92年度音楽学部教職員

音楽学部長 飯田正紀教授
 学科長 池田洋子教授
 学生主事 廣澤節子教授
 田中修二 専任講師

教授

猪本 隆 (Co)

前中明子 (P)

岡田晴美 (Vo)

奥村智美 (P)

音川紘一 (P)

澤内 崇 (Co)

若本明志 (Vo)

山上明美 (P)

助教授

間苧谷明子 (P)

中村 健 (合唱オケトラ)

斎藤言子 (Vo)

(四月よりアメリカ留学)

立川暢巳 (P)

客員教授

ゲイリー・スマート (P)

新任非常勤講師

安藤史子 (Fl)

畑 道也 (歌劇史)

稲垣美奈子 (Vo)

大森地塩 (合唱)

佐々由佳里 (P)

野平一郎 (特殊研究)

事務職員

河野有宏

退職

坂井紀子
 樋口 徹

長山慶子 (Fl)

種谷睦子 (Per)

スウェトラ・プロテイツチ (P)

ピュイグ・ロジェ (P)



87 東 佳子
 87 八谷多郁子



こあいさつをなされる
 安見支部長

関東支部は、'91年度総会を昨年五月三十日、日暮里サニーホールにて約六十名の会員の参加で開催いたしました。長年支部長として御尽力くださいました秋山洋子姉(5)に代わり安見泰子姉(6)を支部長に、武田好子姉(8)を会計に満場一致で選出しました。安見支部長は、「同じ岡田山に学んだファンタジー会員が、母校の伝統を受け継ぎ、ここ関東での御縁を大切に仲良く励ましあってやっていきたいと思います」と御挨拶なさいました。

四回目を迎えた会員諸姉によるミニコンサートも定着し、59回生から新卒の108回生まで、各世代にわたり幅広く出演され、音楽の勉強を続ける素晴らしさを示してくださいました。

二年間お世話くださった86回生から、係は87回生にバトンタッチしました。スタートにあたり、葉書アンケートで会員の御意見を伺いました。この結果を参考

にしながら活動を進めたいと思います。どうぞよろしく御支援と御協力をお願いいたします。

87 東 佳子
 87 八谷多郁子

今年度総会及びコンサート
 6月8日(月)
 午前11時30分
 日暮里サニーホール
 (ホテルラングウッド内)

プログラム

1991. 5. 30 日暮里サニーホール

- | | | | |
|-----------|-------------------|-------|-------|
| 1. モーツァルト | きらきら星変奏曲 K.265 | 94 P | 久野 奈々 |
| 2. シューベルト | ソナタ イ長調 Op.162 | 96 Vn | 阿部 敦子 |
| | | 87 P | 八谷多郁子 |
| 3. ショパン | ノクターン Op.27 No.1 | 67 P | 高橋 良子 |
| フリードマン | ウィンナ舞曲 | | |
| 4. 高木東六 | 夢見たものは | 88 Vo | 三田 延子 |
| プッチーニ | 私の名はミミ | 88 P | 栗坂 道子 |
| | | | 伴奏 |
| 5. グリーク | 詩的音の絵 Op.3 No.1~6 | 59 P | 田山みつゑ |
| 6. 山田耕筰 | かやの木山、からたちの花 他 | | |
| 平井 康三郎 | 平城山 | 83 Vo | 牧 和子 |
| | | 83 P | 東 隆世 |
| | | | 伴奏 |
| 7. ドビュッシー | 喜びの島 | 108 P | 中西恵美子 |



出演の皆さん

音楽学部定期演奏会

日時 '91年11月26日
場所 大阪厚生年金会館
中ホール

指揮 中村 健
稲庭 達

ピアノ 島 敏子

オーケストラ 音楽学部学生
合唱 音楽学部学生



プログラム

- I 女声合唱組曲「三つの抒情」
三善 晃
- II 交響曲第8番 ロ短調
「未完成」 シューベルト
- III ピアノ協奏曲
イ短調Op.16 グリーク
- IV 「三角帽子」第2組曲
ファリャ

定期演奏会は十一月二十六日(火)上記のように厚生年金中ホールで行われました。今年のプログラムはオーケストラの曲が多く演奏されたピアノ協奏曲で独奏された島敏子さんは、現在本学院大学音楽専攻科に在学中で、ハンナ・ギューリック・スエヒロ奨学金を受賞された方です。指揮は中村健助教が全曲される予定でしたが、今年は多くのコンサートマスターのご経験のあるヴァイオリンの稲庭達講師にもお願いしました。たまたま独奏された島さんは稲庭講師に副科でヴァイオリンを履習されていることもあって稲庭講師がグリークを振られる事になり、二人の息がぴったり合っていたとのことです。演奏は四曲とも好評でしたが特にファリャの「三角帽子」では打楽器が多く使われた楽しい曲でアンコールがありました。ちなみに入場者は700名余りで盛会に終わることが出来ました。

(音楽学部事務長 河野有宏)



公開レッスン

4月20日(月)P.M. 3:30～ 音楽館ホール
コンラート・マイスター教授
(ドイツ・ハノーヴァ音楽大学教授)
「ドイツ音楽」

専攻科生3名が受講

5月18日(月)P.M. 3:30～ 音楽館ホール
L・バルベリース教授

イタリア生まれ。ローマで活躍。
スカララッティのソナタを校訂したアレッサ
ンドロ・ロンゴ、アルフレード・カセルラ、
マルグリット・ロンの高弟。
サンタチェチリア音楽院、アカデミア大学院
教授をつとめた。

曲目：「スカララッティのソナタ」
「カセルラの小品」

専攻科生が受講

ファンタジーコーラス
指導 76 桑田 絲子

会場 月額千円
日時 毎月第2・第4金曜日 10時20分～12時
場所 甲東教会(阪急甲東園東へ)

